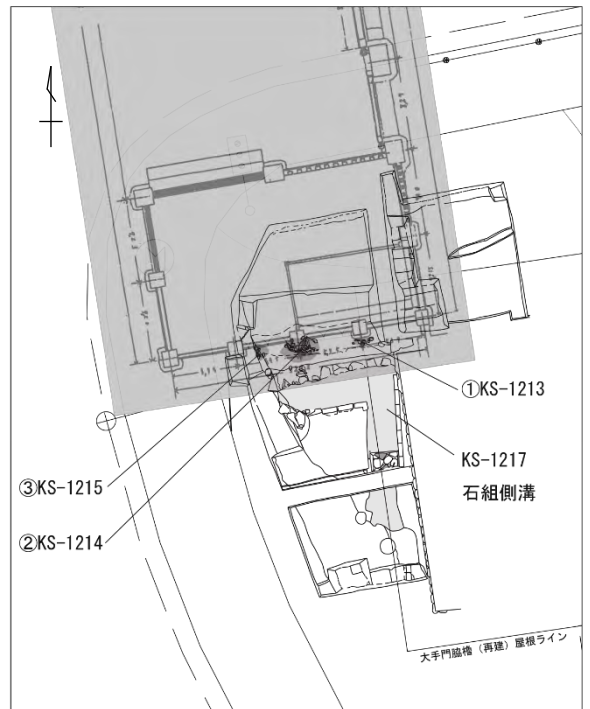


令和 5 年度 大手門跡調査の成果

令和 5 年度 大手門跡発掘調査の成果

- ・大手門の礎石跡のうち 3 箇所と、大手門・大手門脇櫓に伴う石組側溝を確認した。
- ・古写真で見られる柱と石組側溝の位置関係から、大手門南辺の正面側から 2~4 番目の柱の痕跡であると考えられる。礎石跡では根固め石のみが検出され、戦後の道路整備に伴い大きく削平されていることが確認された。
- ・石組側溝は南北方向と東西方向が屈曲する箇所が検出された。石材に電動工具の痕跡が確認されたことから、この側溝は明治以降に設置された可能性が考えられる。
- ・出土遺物は瓦が大半を占め、釘・カスガイ、陶磁器などが出土している。瓦には赤色化しているものが見られ、空襲の際の被熱と考えられる。また軒丸瓦では同じ文様でも形状や径に違いがあり、多様であることが確認された。修復のたびにどのような瓦が追加されたかについて、さらに検討が必要である。



大手門の推定位置 (1/200)



礎石跡・石組側溝の検出状況 (北西から)



礎石跡と埋設管の位置関係 (東から)

大手門南面全景 (『仙台城』
仙台市教育委員会 1967)

1



2



3



4



5



6

軒丸瓦

1~3 豎三引両文

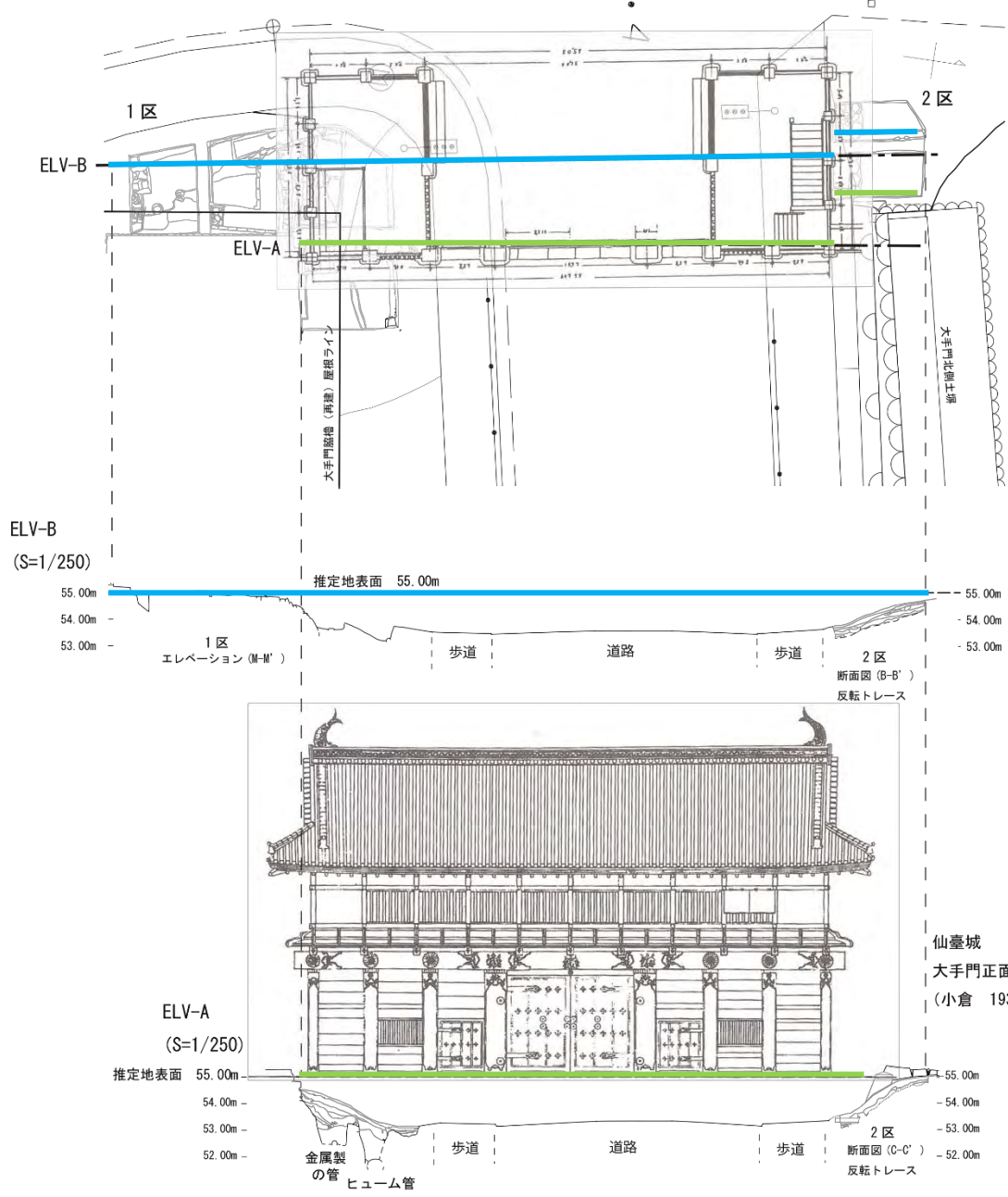
4~5 九曜文

軒平瓦

6 笹文 (雪持ち)

被熱の程度が異なる箇所

出土遺物 (S=約 1/6(1~5), 約 1/4(6))



大手門東面（正面）全景（仙台市教育委員会 1967）

大手門推定位置周辺エレベーション

令和 5 年度 大手門跡関連調査の成果

大手門の復元に向けた各種調査は令和 3 年度から継続的に実施しており、令和 5 年度は大手門跡周辺発掘調査に加えて、大手門復元関連基礎調査のまとめ作業を実施した。令和 5 年度は、大手門周辺の整備に必要な情報収集のため収集した古写真について、復元の検討基礎資料となるよう年代順に整理し、分析を行った。

古写真に基づく大手門周辺の変遷

【先行研究】

高田徹編 2008『城郭と絵葉書—戦前絵葉書資料化の試み—』では絵葉書の書式と写真の情報から、光景の変遷が示された。

「①歩哨詰所・標柱・電柱・柵列有り→②小さな石柱建設→③歩哨詰所・標柱・柵列撤去→④「仙臺城址」碑建設→⑤電柱撤去」

【検討結果】

先行研究の変遷を踏襲しつつ、収集した古写真を加えて検討した。大手門周辺の様子について、年代判断の基準になる項目をまとめたものが以下の表である。

	写真	大手門周辺の様子
~1882 年 (M15)	二の丸焼失以前の写真 (写真 A)	<ul style="list-style-type: none"> ・大手門脇櫓の壁の下側が黒い ・鯺瓦なし ・大手門前の道がクランク状で、門前面に柵列がない ・1890 年 (明治 23 年) の改修以前の様子
1892 年 (M25)	大橋 (鉄橋) 竣工後、道路が直線化した後の写真 (写真 B)	<ul style="list-style-type: none"> ・大手門前面に歩哨詰所・柵列・電柱・第二師団標柱 ・この時期に大手門前面北側に四角柱が確認される
1925 年 (T14) ~	一般開放後の写真 (写真 C, D?)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩哨詰所撤去 ・電柱あり ・大手門脇櫓・大手門北側土塀の前面の柵列撤去
1931 年 (S6)	12/4 大手門・大手門脇櫓が国宝に指定	
1933 年 (S8)	大手門脇櫓南側 (背面) に「満州事変戦没軍馬之碑」設立	
1935 年 (S10)	伊達政宗公三百年祭、「仙臺城址」碑設立	
1936 年 (S11)	11/3 金華山沖地震 (写真 E, F, G) 大手門、大手門脇櫓、大手門北側土塀の被害が報告される。	前面：「仙臺城址」碑と破損した大手門脇櫓が写る (昭和 10 年~昭和 13 年か?) 背面：馬碑と破損した大手門脇櫓が写る (昭和 8 年~昭和 13 年か?)
1938 年 (S13)	大手門脇櫓の修理 この後に電柱撤去か? (写真 H)	
1945 年 (S20)	7/10 空襲により焼失	

<参考文献>

- 仙臺郷土研究会 1936『仙臺郷土研究』6-12
 仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史 通史編 5 近世 3』
 仙台市史編さん委員会 2008『仙台市史 通史編 6 近代 1』
 仙台市史編さん委員会 2009『仙台市史 通史編 7 近代 2』
 仙台市史編さん委員会 2006『仙台市史 特別編 7 城館』
 高田徹編 2008『城郭と絵葉書—戦前絵葉書資料化の試み—』

<新聞記事>

- 「大手門の震害 状況報告」河北新報 1936-11-06
 「大手門横の角櫓 修理始まる 五月一杯で完了見込み」河北新報 1938-5-14

大手門周辺の様子の変遷（明治～昭和まで） 古写真より

<主な出来事>

1882年（明治15年） 二の丸焼失

1888年（明治21年）

仙台鎮台から第二師団へ

1890年（明治23年）

大手門周辺の改修（仙台城大手門修繕竣工録）

1892年（明治25年）

大橋（鉄橋）竣工に伴い、大手門前の道路が直線化

1920年（大正9年）

第二師団により中門破却

1925年（大正14年）

一般人の通行可能、歩哨詰所撤去

1930年（昭和5年） 仙臺高工建築科

小倉教授のもと測量（7月）

1931年（昭和6年） 12/4 国宝指定

1933年（昭和8年） 3/3 三陸地震

1933年（昭和8年）

脇櫓南側に「満州事変戦没軍馬之碑」設立

1935年（昭和10年）

伊達政宗公三百年祭、「仙臺城址」碑建

1936年（昭和11年）

11/3 金華山沖地震

（11/6「大手門の震害 状況報告」河北新報）

3日朝の強震で大手門に損傷が出た。管理する仙台市が直ちに実地調査をした結果を、5日文部省に報告した。大手門屋根瓦一部落下、櫓は大手門との取付の壁の一部および屋根取付の壁、屋根の一部が落下、土塀は約20間の屋根が大破し一部落下し付属壁の土壁と下塗とも剥落。

1938年（昭和13年）

5/14「大手門横の角櫓 修理始まる 五月一杯で完了見込み」河北新報

一杯で完了見込み」河北新報

1945年（昭和20年） 7/10 空襲により焼失

(A) 二の丸焼失前の大手門遠景（～明治15年）



仙台市博物館所蔵

拡大



脇櫓の壁の下側が黒く塗られている

鯰瓦なし

焼失前の二の丸

クランク状の道

(B) 第二師団の正門時代（明治25～大正14年）



文化財課所蔵

歩哨詰所

電柱

第二師団の標柱

柵列

脇櫓前面に柵列

(C) 一般開放後の大手門（大正14～昭和10年）



文化財課所蔵

柵列なし

歩哨詰所なし

電柱

四角柱

(D) 大手門背面と大手門脇櫓の背面（昭和期）



大手門側面・脇櫓背面

『仙台城』（仙台市教育委員会 1967）

(E) 「仙臺城址」設立後（昭和10年以降）



所蔵不明

脇櫓瓦に歪み・崩落あり

電柱なし

「仙臺城址」石碑あり

(F) 屋根・壁が破損した大手門脇櫓



仙台市博物館所蔵

(G) 屋根・壁が破損した大手門脇櫓（昭和8年以降）



仙台市博物館所蔵

石組側溝

屋根瓦に歪み・崩落あり

馬碑が写る

(H) 「仙臺城址」設立後（昭和10年以降）



文化財課所蔵

屋根瓦に歪みなし

「仙臺城址」石碑

四角柱

電柱なし